

川崎市動物愛護センター所長様  
譲渡担当者様

平成 21 年 3 月 16 日  
アニマル・フレンドシップ  
代表 宮城 将子

このたび、3月9日に私達アニマル・フレンドシップは、センターの猫たちの譲渡について文書で申し出ました。もう、目を通されたことと思います。すぐにお返事を頂きたいとお願ひしましたが、今日までお返事がありません。

川崎市動物愛護センターは、ホームページで市民に譲渡に協力してほしいと呼びかけているようですが、実際に協力を申し入れている市民の私達に、なぜ何の連絡もいただけないのでしょうか。市民の協力を求めているのは、建前だけのパフォーマンスに思えます。文章だけ掲載し、実務は行っていない現状には、大変失望してしまいました。

命が助かるかどうかの問題なので、猶予はないと思います。市民の私達が猫の引き出しを申し入れてから今日までの間に、いくつの命が葬られたのですか？収容された猫を譲渡したくても、引き受けるボランティアがいなくて、泣く泣く殺処分している愛護センターや、また、工夫を凝らして1頭でも多く、譲渡したいと頑張っている愛護センターもあります。

川崎市動物愛護センターには、今回の私達だけでなく、以前より他の団体も子猫を引き出したいと申し出ているではありませんか。必ずしも全頭は譲渡できなくても、今よりもずっと多くの命が助かるはずです。

1頭でも2頭でも助けたい、生かしたいという動物愛護の気持ちが、所長さん、西村さんにはないのでしょうか。愛護センターの職員として、理解できない対応です。

私達、市民からの協力の申し出に、礼をもって対応して頂けないのでしょうか。

人も動物も同じ命です。どうか尊い命を簡単に殺さないでください。

私達市民の声が、あまりにも軽率に扱われているように思います。今回の件については、川崎市の民主党市議会議員の飯塚正良先生にもご相談させて頂いております。

前回の質問にお答えください。すぐにお返事をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。